

明治大學戦没学徒忠霊殿ご由緒

新潟縣護國神社境内鎮座

御祭神

明治大学から学業半ばにて学徒動員で入隊した学生は約三八〇〇名。その中で戦死なされました三二三柱のご英霊を奉祀。

沿革

明治大学戦没学徒忠霊殿は、戦時中駿河台校舎図書館の三階に安置されていたが終戦後、解体された忠霊殿は体育館の倉庫に保管されていた。この事情を知って、心を痛めた校友がいた。故師尾源蔵氏である。明治三十年水原町出身、大正十三年専門部政経卒。昭和三十六年没。師尾氏は懇意だった新潟縣護國神社へ移設、再興を大学に要請。昭和二十五年七月、解体されたままの忠霊殿が護國神社に到着。

その時、護國神社二代目宮司、故樋口隆氏は、法科二年の明大生だった。しかし、直ぐ再興できなかつた。師尾氏は、新潟県内の校友の力を借りて再興資金の寄付金集めに努力した。五年後の昭和三十年、大学から忠霊殿回復資金が届き再建。同年七月九日、招魂祭。翌十日当時の小島憲学長他大学の役職者、県校友会会員、他大学からの参加者が集い第一回目の慰霊祭が開催された。「師尾氏は、応召軍人としてシベリアに歴戦。萬邦の平和はスポーツであると自覚。民間スポーツの育成や出陣学徒の英霊を祭る全国運動を展開した」（忠霊殿脇に建立されている師尾源蔵先生の顕彰碑文より抜粋）

月日は流れ平成十七年は戦後六十年。護國神社拝観所に仮安置されてから五十年が経過した。拝観所も常時参拝が不可能で一年に一回、忠霊殿慰霊祭のみが参拝の機会だった。忠霊殿の新築建立が話題になり、大学との話し合いで明治大学が建立することに決定した。平成十八年十月六日に拝観所より御霊を移す遷座祭。同年十月九日に竣工致した。昭和三十年より毎年七月十日に慰霊祭を開催し、声高らかに校歌を奉納している。

例祭日

毎年七月十日 午前十一時より

明治大學戦没学徒忠霊殿於